



発行 KOA 森林塾 (事務局)  
0265-70-7065  
編集 早川清志  
題字 島崎洋路

# Bコース秋の部 森林塾報告 『ちよつと待て、仕事は急には探せない』

始まった早々の自己紹介のとき、「会社を辞めました」「来年辞めようと思っ

ません。

インストラクターの皆さんもこつという方が多く、この塾ははまる(はめる)塾か、という声も聞かれますが、これまで『御自分の人生、悔いの無いように』、と思うと同時に『山仕事で食べていくのは大変なこと、もう一度考え直

たら』とも思ってしまったのです。少なくとも、あまり細かいことによくよしないケセラセラの人であること、体力が十分にある人、人並み以上に儉約家であり、できる限り自給自足ができることなどが必要条件であるようです。今回も香川、神戸、大阪、山



「ぶり縄」から降りる時はだれでも最初はユーモラスなコアラ状態。その代表の杉谷さん

形など全国各地からいろいろな方が集まってくれました。ありがとうございました。二日目の夕方から本格的な雨になって、ドラム缶が冷えて鎮火してしまい、炭焼きは失敗でした。イントラ中村のほかに窯のお相手をできる者が居らず、事務局の反省材料です。

三日目も朝から雨で林内作業車や「ひっぱりだこ」を使ってもらうことができず、これも心残りのひとつです。ただそのおかげでロープのアイスブライス(アイ加工)はほぼマスターしていただけたし(ですよ)、ドラムカン炭焼きやこの目立ての話もじっくり聞くことができました。

でもでもやはり二泊三日というのは本当に短い期間でした。調査の方法、調査表の作り方、間伐の考え方等ももっととじっくり、しっかりと理解していただけるまでできればいいのですが。

直径階別の本数や樹高を御自分で設定してももう一度調査表を完成させてみてください。まだよくわからないところもあるかと思いますが、遠慮なしに事務局までメールやFAX等で聞きに来てください。



とても筋のよい溜さん



公務員二人、仲良く並んで直径巻尺づくり

**今回の内容**  
Bコース秋の部  
10月27日(金)～  
29日(日)  
**一日目**

- 10時集合、先生方のあいさつなど
- 10時30分 インストラクター、参加者の自己紹介
- 11時15分 直径巻尺づくり
- 12時 昼食
- 1時 小屋の西側の小沢区財産区有林にて現況調査開始



島崎先生の手にかかるとナタもただの道具ではなくなる。



ロストルを入れて、ドラム缶窯の仕込み開始

- 2時30分 調査表の作成に入る
- 3時30分 相对幹距比(Sr)が16〜20くらいになりました。それぞれのグループの調査区内で40本程度を残すこととする
- 4時 小屋横で自走式集材機のデモンストレーションを見た後、チェンソーで玉切りの練習
- 4時40分 ドラムカン窯の仕込み

二 日 目

5時30分 終了。大多数の方は「みはらしの湯」へ

6時30分 交流会開始。島崎先生の民謡やハーモニカも飛び出しました。



島崎先生の民謡がでるとエンドレスの兆候

8時30分 集合。まずはドラムカン窯に点火

9時 間伐の考え方、方法の説明。グループに分かれ現場に向かい、残す木にテープを巻く

9時ころ一応終了、解散したものの、小屋には関西弁の高笑い(なんのこっちゃ)がその日じゅう響き渡っていました

10時 伐倒開始

12時 昼食。豪華な豪華なミルクのお弁当でした



ドラムカン窯に点火。ここまでは失敗の兆候はない。



ちょっと緊張、加藤さん



林内作業者を運転し、萩原さん悦に入る



イントラ後藤がチェーンソー目立ての実演



5時20分 終了。「みはらしの湯」のリピーター多し

6時30分 小屋での夕食。終わった順に流れ解散。ミルクに戻り就寝。でも10時頃まで小屋は賑やかだったな



手がもう一本欲しい。ぶり縄に上がった野沢さん。



ハロウィン丸太で、抜倒の説明



大きなヒノキに挑戦した大垣さん。まだ肩の力が抜けない。



イントラ石原、余裕のポーズ写真右ぶり縄で面手を使うには片足を使ってホールドする。

三日月

8時30分集合。朝起きた時点でドラムカン窯は鎮火してしまっていた。残念、失敗

雨が降り続いていて、今日は外に出られそうにない。小屋の中でロープの端末加工(アイスブライス)をし、ぶり縄を作る

10時30分 島崎先生が恵那文化センターでの講演に出かけなくてはならない時間となり、講評をいただく

11時 イントラ『じよんのび』藤原によるのこぎり目立て

12時 昼食

1時 イントラ中村による今回のドラムカン窯の経緯説明と、炭、木酢液の話



中嶋さんのアイスブライス。会社の仕事にも応用できるかな？



完成したアイを榎木(しゅもく)に通してぶり縄完成



まき割り大好きのイントラ川島、大森さんを指導



じめました。皆さん、免許皆伝とはいかないまでも何とか割れた模様  
2時50分 保科先生の総評、イントラの方々にもあいさつしてもらい終了。お疲れ様でした。ありがとうございました。



さすがにサマになっている。じよんのび藤原ノコ目立て



保科先生のナタはヒゲが剃れる。



ロープでくさり



いつでもまき割りに来て下さい、野沢さん。

参加者/井伊さん、池上さん、岩澤さん、内谷さん、大垣さん、大野さん、大森さん、荻原さん、勝屋さん、加藤さん、河合さん、源野さん夫妻、斎藤さん、佐藤(健)さん、佐藤(誠)さん、椎原さん、杉谷さん、田中さん、溜さん、伴野さん、中嶋さん、野沢さん、平林さん、藤井さん、堀口さん、松永さん、蓑田さん

講師/保科先生、島崎先生  
スタッフ/後藤、中村、藤原、川島、石原、宮崎、坪木、早川

次回以降の予定

第12回 11月11日(土)

日程が変更になりましたのでお間違えなく。

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。端末加工をし

た麻縄とヒノキの枝で「ぶり縄」を作ります。これで木登りをして枝打ちをしてみましょう。ヘルメット、ナタ、ノコお持ちの方は持参下さい。またナタやノコを研いで(目立てをして)見ます。切れない包丁、ナイフ等あればこれも持参のこと。

第13回 11月18日(土)

復習の回とします。測量と伐木造材を復習したいと考えています。またこの機会にチェーンソーの目立て、手入れ、調整を徹底的にやってみましょう。

第13回 12月2日(土)

炭焼き

ドラムカン窯等で炭を焼いてみましょう。お昼は恒例のそば打ち、われと思う方はお集まりください。夕方から忘年会(もうそんな時期なんですね)をやりますか？

11月12日(日) KOA(株)の収穫祭があります。縄文さんに火起こしを上演してもらおう予定です。無料屋台は12時頃から。KOA パインパークにて、ご用とお急ぎでない方はどうぞ。



# リレー通信

『二十一世紀の  
炭焼き一年生』  
源野 博丘



Bコース二回目参加の力ネ源こと源野です。今回は連れ合いの啓子さん夫婦で参加です。

以前から田舎暮らしを夢見て、自然農法や有機農業の勉強をして行く中で、山林の荒廃や林業の問題点、農業の矛盾の数々が見えてきた一人です。

もともと都会の消費生活で当然とされる価値観や生活感覚に疑問を感じていました。その違和感をいわゆるアウトドア遊びや魚つり、家庭菜園などでゴマ化しつつパランスをとってきたモノが、どうにもゴマ化し切れない大きさに育ってきて、「このままサラリーマンで定年を迎えてはな

らぬ、行動に移さねば」の気持ちが強くなってきました。昨年催された南紀熊野体験博で「紀州備長炭熊野会議」に参加し炭焼きのしんどき、難しさにすっかり感動してしまい、炭焼き家業へのアプローチが始まりました。

木炭には黒炭と白炭がありますが、備長炭は白炭の代表格です。打ち合わせた時キーン、コーンと鳴る、あの堅い炭です。鋸でも切れないので、使い古しの鉈の衝撃で断ち割って長さを揃えます。原木はワバメガシと言つ堅い木で、地元の炭焼きさんはマメまたはバベと呼んでいます。

これが重い、水に沈んでしまふ程重いです。この木は黒潮の影響を受ける(と私は感じています)海岸から二十kmくらいの痩せた急峻な山に育っています。まれに平坦な溪流沿いにもありますが、概ね這って登るような急斜面での伐採作業になります。また、そんな山でジックリ育った木ほど、堅く引き締まった良い炭になるのです。

そんな現場で炭焼きさんは、十年前後の周期で繰り返し伐採できる様に択伐し、生長の邪魔になる蔓や下草刈り、雑木の間伐もして守り育てています。さらに切る時もあるだけ地面に近い所で切り、切り口の周囲から新しい芽が出やすい様にします。

紀州斧とチェーンソーで枝を払い、二メートル前後に玉切りした原木は、山の麓の道路端まで、背負って投げてを繰り返して、軽トラに積み込みます。

どうです？アホらしいほどしんどい話でしょう。これからがまた面白いのです。こうして窯場まで運んだ原木が、またどの木を見ても真つ直ぐに育った木が無いのです。中にはS字型に曲がったものまであります。この木を乾燥しないうちに、また今焼いている炭の窯出しの日迄に、鋸や斧で切れ目を入れ、木片の楔を入れて真つ直ぐにし、自分の腕より太いものは半割りに、足より太いものは四つ割りにして、太さ、長さを揃えて立てて行きます。これは、窯の中に隙間なく詰め

る事によって、収量を増やす事は勿論、均一に炭化を行い高品質を保つ上でも大切なことです。これを「木づくり」、「木ごしらえ」と言います。

この状態で今焼いている炭の窯出しの日を待ちます。(待てるようになったら一人前で、窯出しの日は近づいてくるは、原木の量は足らんは、木ごしらえは進まんは、雷は鳴るは、雨は降ってくるは、子供は泣くは、ギックリ腰は出るは、嬬は出て行ったまま帰ってこんはテナ事も多い様です)

めでたく窯出しとなれば、お馴染みの真つ赤に精練する「ねらし」をさけながら十分位の休みをはさみつつとはいえ、半日の連続作業の始まりです。窯の内部は千数百度になり、炎は音を立てて顔を焦がします。灼熱の作業で、いくら水を飲んでオシッコが出なくなると言います。

真つ赤な炭に素灰をかけて消火し(気を付けないと消したつもりが素灰に穴をあけて燃え上がります)この作業を数十回繰り返した後、窯の冷めるのを待ちます。

何とか入れる程度に冷えるのと、窯床を水平に均して、木ごしらえの済んだ原木を窯詰めします。初めはコリヤ丁度サウナの熱くらいや、出っ腹の為にエエなんて思っています。五トンの原木を手作業で隙間なく立てて行くのですから、ついミカン食べたたり、お茶飲んだり、風に当たったりと休憩のしたおしになります。

何とか窯詰めが終わり、口焚きの準備ができれば「ご苦労さん、一杯イコフヨー」となつて一サイクル終了です。(忘れてはいけません。カンジンの収穫、つまり素灰で消した炭の等級選別と箱詰め作業があります。これで終了) 森林塾通信の趣旨と離れた炭焼き話になってしまいました。自分の理解度チェック



「夫婦善哉」啓子さんとアイをつくる

焼きの誕生に過ぎないのには、天におまかせです。  
「地球に優しく」なんて、エコマーク使つてより多くの利潤を求め、「再生紙を使用しています」と言いながら国内の間伐材も使わずに熱帯雨林を破壊しているヤツラとオサラバです。(もっとも晴れて炭焼きになつた日ニヤソ

も兼ねて書いてみました。さて紀州の山も、ご多分に

もれず戦後の拡大造林と梅畑への転換、今日、明日の力ネに目の眩んだ「カイハツ」で自然林が減少し、風水害に弱い山が増えていきます。私一人が都市生活をやめて炭焼きになつたとて紀州の山には何程の事もありません。しかし、根が深く岩石に入り込み、崖の崩壊を防ぐワバメガシを守り育てる事は、山林を守る事に繋がりますし、何より山の持ち主に対して炭焼きが伐採の交渉をする事が、自然林の経済価値を生み出し、山林保護になるはず

新世紀に人生五十年を迎えようとしている今、炭焼きの翁を目指して再出発しようと思ひます。それが二十五年のサラリーマン生活からの逃避になるのか、経済合理主義への反乱になるのか、一新米炭

とは言うものの時に感じては赤い灯青い灯を懐かしく涙を流し、別れを恨んでは蛇にも心を驚かす日もあろうかと思ひます。  
また炭焼きになる事は破壊の現場に入る事だとも言えます。山を小奇麗に囲い込んで自然公園を作り、谷は埋め立てて産廃処理場となし、好条件の場所にはゴルフ場を造成



# リレー通信

引越し  
太田 雅明

平成十二年八月一日夜十時三十分 駒ヶ根市東伊那栗林城村屋号中南に大阪から定年まで二年六ヶ月残し、会社同僚達の引き止めを振り切り、またもや騎馬民族の血が騒いだのか生まれながらの気儘ものさっさと退職、女房と二人今までと違った暮らしを始めようとやってみました。

する。その現場に近づくと事もあり。安穩な田舎暮らしの日々ばかりではありません。行き詰まった時、落ち込んだときは、保科名人、鳥崎先生始め、森林塾の皆さんの智恵と知識とエネルギーを頂戴に伺う心算です。  
山陰の版画家、長谷川富三郎翁の「下手でも続けることがカンジン」「今日より若い日はない」を座右の銘として頑張ります。今後とも、よろしくご高誼願います。



まっ黒な顔にレーパンのサングラス、印象的な白い歯で微笑む顔、今でも鮮明に私の脳裏に焼き付いています。依頼されたら二つ返事で遭難者の救助に向かうそんな友人、大酒飲みで酔うと必ずエーデ

信州の空の下で 一生で真の友人って一体何人位出来るのでしょうかね。友人が窮地に立った時、己の全てをなげうってその友人を救う為に心底必死になれような気持ちを起こさせる友人、実はそのような私の友人の短い一生を少し語らせて下さい。  
今回の引越しも彼に対する私の想いが大きく働いているからです。今から三十年近く前になりますが、奈良県出身の彼は卒業と同時に京都に就職、同じ頃素晴らしい山、白馬岳に出会い彼の山人生が始まったのです。間もなく彼は会社を退職、白馬村に古民家を借り、春から秋まで地元で土方仕事、冬はスキーパトロール等で質素な暮らしの末、数年後実父(山持ち)から材木もらって立派な家建てた。女房もいないのに変だねとよく彼と酒を呑みながら話したものです。その数年

後、やはり山登りをされていた方と結婚(友人達で手作りの結婚式をやった)四人の子供が産まれとても幸せな家庭だった。  
彼は長く山岳救助隊員をやっていた。県警ヘリコプターのお迎えで遭難救助に向かう勇ましい姿、忘れることが出来ません。又少し変わったやつでして、独身時代(チョンガーと申します)帰れば大きな古民家があるにも拘わらず、わざわざオーバールング宙吊り状態で、寝返りもままならぬハンモックの中で、星空眺め口笛吹いて一夜を過ごす豪傑で寂しがりや、一緒にいると愉快で実によくいやつてしたが、神のいたずらですか、十五年前交通事故でさっさとジーザスの所に行っちゃったのです。  
彼と一緒に滑ったのですが、私の前方滑る彼は少し行っただけで後からくっついてゆく私を気遣ってか時々立ち止まり雪焼けした

止まり雪焼けしたまっ黒な顔にレーパンのサングラス、印象的な白い歯で微笑む顔、今でも鮮明に私の脳裏に焼き付いています。依頼されたら二つ返事で遭難者の救助に向かうそんな友人、大酒飲みで酔うと必ずエーデ

ルワイス(伊那の勤太郎ではありません)その彼が私を信州に誘導してくれたので。 高鳥谷おろし  
八月初旬午後になると毎日のように雷雨がやってきた。ある日強烈な稲光、雷鳴、それに続いてバケツひっくり返したような雨、さあ大変、雨漏れ数ヶ所バケツ二個しか持つてきておらず、雨水受けるものがない。床に容赦なく雨が落ちてくる。物置に何かないかと引き戸を開けるとポリバケツ数個発見、早速お借りして雨水を受ける。しかし癪な事に雨水は私の慌てふためく様子をあざ笑うがごとく屋根裏を伝って少しずつれてゆく。その度に全てのバケツの位置を移動させなければならぬ。もう大変、雷鳴は続く。雨足も緩む気配がない。家全体が震えている。近くに一つ落雷。  
ガラス障子から裏庭を覗く。一軒上のお隣の庭と我が家の庭の境の石垣の隙間から、まるで火事現場の消防ホースから勢いよく出る水の如く吹き出ているではないか。その鉄砲水の流れがあつた。もつと心配なのは勝手口そばのトイレ(水洗ではありませぬボタン汲み取り式)に浸水すれば後が大変。合羽着る余裕もなく右手の鍬左手に

傘、裏に飛び出し水路造り、これがなかなか捗らない。石ころが多く四苦八苦、多分大昔川原だったんじゃないかと思われる。  
その水路のお陰で水達は素直に表通りに流れてくれた。考えてみれば単純なことです。水は高い所から低い所に流れます。お金だけは違うようですが。  
翌日お隣さんに尋ねると、こんなひどい雷雨は二十三年ぶりとの事、私はほっとすると同時にこの荒っぽい洗礼を受けて、天からこの地に住む承諾を授かったと感じた。さあその後が大変、雨漏り数ヶ所修理しなけりゃいけない、今までサラリーマンでのほほんとして暮らしてきたお陰で雑用は何もできない、屋根に登る梯子も脚立もない。屋根漆喰はどのようなものが一番安く粘着性に優れ、使い易いのか等々考えるが、今更スムースに事が運んだためしなし。十月十三日現在屋根瓦については修理補強続行中、遅くとも冬までには終了したいものです。  
まあざつとこの様な伊那の暮らしぶり、お陰様で隣近所の農家や果樹園の方々から稲刈り、脱穀等の依頼が殺到しており、毎日出掛けるものですから屋根修理は一向に進みません。でも雨漏り修理よりも沢山の方と知り合っ

るいろご教示頂き一緒に昼飯喰って、帰りにお土産(野菜や果物)もらって帰ってくる方がずーっと楽しい。一人で屋根に登ってヘッピリ腰で恐る恐る補修している姿は余り本人も好きじゃありません、と言う具合で雨漏りも当分完全シャットアウトとはいかないでしょうね、森林塾の皆さん何かいい知恵ございましたら教えて下さい。

岐阜県の東濃地方、恵那市から昨年に引き続きこの森林塾に参加させて頂いています。ちょうど一年前、定年まであと数年というところで退職し、今、中津川市の高等技術専門校で建築の生徒として三十数年ぶりの学校生活を楽しんでいきます。  
木造大工を養成する訓練校です。夏休み以降は毎日ほとんど実習ばかり、今三十坪程の新築住宅の木材加工に取り



# リレー通信

大工修行、森林塾と  
自給自足の生活  
奥田 光位





組んでいます。赤松の丸太梁を手斧を使って削る時は大工の仕事をしているという気がします。桁、棟木等の継ぎ手は鎌継ぎ、又は金輪継ぎ、丸太梁の仕口は兜蟻です。練習でも二回しか作った事がないのに、すぐ本番で加工させるとは何と無謀な先生方。失敗したら一本一万五千円の弁償だよ」と仲間を脅し、又脅されながらノミを振るっています。

そんな大工修行も大変楽しいことなのですが、私には若い頃から田舎で自給自足の生活がしたいという夢がありました。夢は未だ実現していませんが、自給自足の生活を目指し、現在土地の開墾と野菜作りに励んでいます。

ずっと以前名古屋近郊の町に住んでいた時、偶然岐阜県の中の住まいの近くに山林とも原野とも区別のつかない荒地を手に入れました。昔は田んぼだったそうですが、長

年放置されていたため、茨や藤蔓が密生し所々沼地状の湿地もあり、中に入るのが恐ろしいような状態の土地でした。それを休日毎、車で一時間かけて十年余り通い続けてやっと二反程の畑が出来ました。

他にドジョウの養殖用池とほんのわずかの田んぼも出来、今年は念願の稲の試作に成功。無農薬手抜き農業の看板を掲げておりますので、苗は四十cm角に一株二本を手植えし、後米糠を田面が見えなくなる迄どっさり蒔いて、木酢液を三、四回水口から流し込み、一回草取りをして終わり。それでも病気もせず(たぶん)稲穂はりっぱに頭を垂れてくれました。脱穀、初摺りはどうするか?収穫量が少ないので考えています。「誰か足踏み脱穀機持っていないませんか!」来年は本格的に稲作に取り組みたいと思っています。不耕起、直播き、無農薬稲作に挑戦。

主力の野菜の出来はどうかと言えば、えんどう、玉ねぎ、かぼちゃ、芋類はまあまあ。大豆も味噌に加工して我が家の半分がなんとか確保出来る程度、菜っ葉類はほとんどだめ、それでも毎年種は蒔いています。虫が食べ忘れたものを人間様が食べている。トモロコシもたぬきさんの為に作ってやっているようなものでしたが、昨年稔る前の実を新聞紙で包んだら(月刊誌、現代農業から)たぬきの害に会わずに済みました。

果樹では梅の実が採れすぎてジャムにしたり、酢と味噌と焼酎の混合液につけ込んでドレッシングに(好評です)。ブルーベリーも採れすぎてジャムや焼酎漬に。七年生の鬼ぐるみがたくさん実を落としていて、これは五平餅のタレを作るのに利用。干し柿作りもそろそろ。農作業というのはいやればやるほど忙しくなるものだと実感しています。

野菜作りは雑草との戦いでもあります。私の畑では八月初め、人間の方が暑さで戦意喪失し雑草の天下となります。畑一面を覆う枯れ草を片付け、焼くのが秋から冬にかけてのいつもの作業です。昨年からは新たに森林塾で学んだ森づくり作業の復習が加わってきました。畑の南の杉四本の伐倒を計画、事前に鳥崎先生の伐倒の適期や切り倒した後、枝を付けたまま三、四ヶ月放置して乾燥させる(葉枯らし)方法を教えていた息子と二人で実行しました。最大の杉は樹高四

十cm、相当つらこけ気味の杉でしたが、倒れ始める時の迫力は、すさまじいものがあり、恐怖を感じました。大木の生命を奪ったという気持ちもあり、有効に利用してやらねばと、四ヶ月放置した後の今年の二月から、マイチエーンソーで四cm x 三十cm x 二mの板材八枚、丸太の四ツ割り八本、丸太四本を製材し、囲炉裏部屋(これも森林塾の山小屋で見て、どうしても欲しくなって新築後一年の私の八帖部屋を改造して作ってしまった)の柵になるのを待っています。

薪作りの復習も始めました。大工の卯仲間の持ち山に入り棚や小槽の放置されたものをチエーンソーで切り集めています。そのうちこの仲間の中で林道作りや間伐の復習をやるうと勝手に決めていきます。

恵那市文化センターで鳥崎先生が講演されることを知って、この仲間に関わることができると喜んでいました。野菜作りで自然と関わり、大工修行や森林塾で木と関わって私はただ今この生活を楽しんでます。この楽しみを倍加させてくれた森林塾の皆様

に感謝しました。又、東濃松の里に住んでいて、私に出来るであろう森作りの手伝いは何かを探し、これからも楽しく木と関わってゆきたいと思えます。

**コラム**

先日、水芭蕉の群落で有名な鬼無里村の森林組合の見学会に参加した時のこと。ここは六十七年から製材おがくずの利用と冬期の出稼ぎを減らす為にえのき茸の栽培を始め、更に瓶詰め加工によって女性の雇用場を作るなどの効果を生み、今では収入の半分以上が生きのこ販売と食品加工(えのき茸茶漬とか山菜炊き込みご飯の素等など)によるものだとか。逆に製材部門は二年前から休止。村に入る道ですら大変厳しい山道、林道はほとんど整備されていないから伐採に経費がかかるのに材の価格が安いというおなじみの状況ですね。

カバ、ナラ、ブナ、ケヤキのフローリング材の在庫がたくさん積み重ねられて腐るのを待っていました。もったいないね。どなたか買って取って自分で敷きませんか? 来年には統合されて長野森林組合になつてしまつて。ところで皆さん、森林組合は競争中に薪炭の需要に応えるために設立されたって知ってました?

**立ち寄り情報**

信州そばの店あれこれ

新そばの季節でもありますが、「そばの細道」(川辺書林)を読んで参考に。これは塾OBの宮下武久さんが最近出した本です。伊那市内ではこやぶ、梅庵、亀、辰野のさくら、駒ヶ根の丸富、福寿美など、店での体験談はもちろんです。そばにまつわるいろいろな話(塾のことも)載っています。そばを「たぐる」「あつらえる」という言葉、いいですね。因みに伊那市立図書館には入っていますが、定価は千六百円です。

**おわりに**

Bコース参加された方お疲れ様でした。忘れ物が一点、紺色の雨具の上着。首周りは濃い緑で内側はメッシュになっています。

また、明るい紺の上着を探しています。ゴアテックス加工でフードが襟に納まるタイプ。二点心あたりの方は事務局まで。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
mi-tsuboki@koanet.co.jp  
携帯:0902-53-26375 (開催日)  
H.P. http://www.koanet.co.jp

